



# 蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 12

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



**懐かしの1枚**  
加嶺トンネル  
昭和7年・仁尾町

加嶺トンネルがある県道仁尾詫間線(現、県道21号線)の工事は、昭和3年から着工され、昭和9年に竣工した難工事であった。その後、自動車の普及により交通量が増加したため、昭和47~50年に道路改良工事がおこなわれ、加嶺トンネルも使用しなくなった。

## 「想い出のページ」

詫間町と仁尾町を結ぶ加嶺峠の仁尾町側に住んでいる中井元助さん(93)は、当時小学生でしたがトンネル工事の様子などを鮮明に覚えていました。

トンネルが開通した時に、学校の先生がみんなを連れて、トンネルを見に行きました。小学校6年生でした。こういう風にして掘るんやなと思いつつ、岩がゴツゴツ出ていると、岩がゴツゴツ出ていると覚えていて。両方の入り口だけがレンガをついとったな。休みの日は面白半分にトロッコに乗って遊んだりもしたんや。掘出した土は全部、トロッコで500m下にあつたみかん畑に入れてとった。トンネルの上には自分の山もあるんで。掘るんも今のような機械がなかったさん、つるはしを使って手で掘ったり、大きい岩は金づちのみで穴をあけて砕いとったで。トンネルを掘る前の山道は、家のすぐ裏を通っていて、車は通れない道幅だったんで、みんな歩いてとったんや。頂上あたりに1軒の茶店があつて、飲み物を

売とったから、みんなそこで一服して行つきました。終戦後中国から帰って、トンネルの近くを開墾し、みかん畑を切り開いて、競争でみかんを売ったりしたな。中郷(詫間町)の人がトンネルを通つてみかんちぎりに来てくれた。昔は夜なべして縄やこもを編んだり、食事も麦ごはんやこんこを食べたりとった。今の時代はほんまに毎日が正月じゃあ。

### 編集 後記



**空** き家バンク利用者の取材を通して、市外から来た人、市外へ出た人にお会いしました。市外を知る皆さんが、声をそろえて話してくれるのは「みとよ時間」の魅力。自然の多さ、人の温かさから生まれる、人を包み込むゆったりとした時間は、住んでる私たちが気付きにくい大切な宝物だと感じました。